

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成30年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
30-8	道路土工と舗装の一体型診断システムに基づいた長寿命化修繕方法の開発	岐阜大学 教授 八嶋 厚	B
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>舗装表層の供用年数が使用目的年数に満たず早期に劣化が進行し、補修が高頻度で繰返される区間について、経済的な道路管理の観点から LCC 最小化を実現する、詳細調査方法の高機能・効率化と抜本的修繕工法の開発を行うことを研究目的として、現場計測、試験施工、実大実験等を実施し、現場に実装可能な調査設計マニュアルと施工マニュアルを提案する。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>舗装と土工の一体型点検手法に関して具体的な成果を上げ、長寿命化修繕工法の調査設計や施工マニュアルを作成し研究成果がとりまとめられており、今後の現場での活用が期待できる。一方、路体の損傷の程度が舗装構造に及ぼす影響の検証など、提案手法の有用性の明確化の取り組みが望まれる。このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. マニュアル類の作成など十分な実務的成果にまで至っている。</li><li>2. 舗装と土工を一体とした健全性評価手法と対策工法の提案に関する研究と評価する。舗装は路体が健全という前提で構築されるが、確かに路体の損傷は舗装の構造破壊に直結するので、路体の安定性を評価することは重要である。ただし、本研究では、路体の損傷の程度が舗装構造に及ぼす影響の検証が十分ではなく、診断システムの有用性が確認しづらい。路体の健全性評価に的を絞った方が有用性を評価しやすかったのではと感じた。</li><li>3. 本研究での成果であるマニュアル案を多くの道路管理者に展開していただき、実務への適用を進めていただきたい、また、適用の段階における課題を解決し、マニュアルを継続的にブラッシュアップしていただきたい。</li><li>4. 提案した修繕工法の現場適用の中で確認された不具合内容について今後の経過を確認しつつ、改良方法について引き続き研究されることを期待する。また、今回の舗装と土工の一体型点検手法をもとに、一体型設計手法へと進化する研究についても期待したい。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第43回新道路技術会議において審議したものである。